

学習院大学史料館 ミュージアム・レター

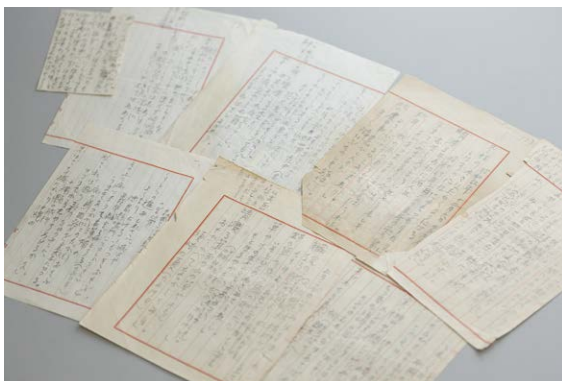
Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.43

発行日 ● 令和2年(2020)10月1日

もくじ

ごあいさつ	1
香川家文書と桂宮家旧蔵御宸翰	2
仙洞御所由来 麒麟住吉凶末廣	4
有栖川御流	6
昭和天皇直筆御製草稿	7
皇子たちの学用品	8



昭和天皇直筆御製草稿〔当館蔵〕

ごあいさつ

学習院大学史料館では、秋季特別展として「筆が織りなす皇室の美」を開催いたします。新型コロナウイルス感染が続く中、秋からの大学の授業も、この原稿を執筆している8月の時点では、原則として遠隔授業によることが予定されています。その場合、学外の方々が大学に入構し、展示室で実際に史料などをご覧になることは残念ながらできません。

その代わりに、当館では初の試みとして、Web上で展示品を公開する予定です。これによって、ふだん学習院までお越しになることが難しい遠方にお住まいの方にも、天皇をはじめ皇室ゆかりの方々による筆に関連する史料の数々——この中には天皇自筆の書(御宸翰・御宸筆)、筆を使って描かれた絵画、皇族方が学習院で使用していた文房具など、さまざまなものが含まれます——をご鑑賞いただけることと存じます。また、島谷弘幸・九州国立博物館長による史料館講座も、オンラインで配信する予定となっております。詳しくは当館のホームページをご覧ください。

今回の特別展では色鮮やかな「麒麟住吉凶末廣」も公開いたしますが、これは、公益財団法人三菱財団から文化財修復事業のための助成をいただき、修復することができたものです。特別展と史料館講座の開催にあたっては、一般社団法人霞会館からは多大なご尽力を賜りました。展示物の所蔵者の方々をはじめ、展覧会の開催にあたりご協力いただいたすべての関係者の皆さまに、心からの御礼を申し上げます。

(館長 水野謙)

筆が織りなす皇室の美

筆は紀元前の中国で発祥し、仏教と共に日本へ伝来したと言われます。以後今日に至るまで筆は生活の中にあり、常に身近な存在でした。その役割は文字を書くこと、画を描くことにとどまらず、化粧などにも使われています。筆の種類もいわゆる筆の他に、「筆」という文字で表される万年筆や鉛筆も、広い意味では筆の種類に含まれると考えられます。

常に生活の中にあった筆。皇族の方々も筆を使って、様々なものを表現されました。特に天皇ご自身が認められた書は御宸翰・御宸筆と呼ばれ美術品としても貴ばれました。

本展覧会では、桂宮家旧蔵の伏見天皇御集「広沢切」、後水尾天皇御筆消息、靈元天皇御宸筆の和歌懐紙などを初めて公開いたします。また靈元天皇の書風を受け継ぎ有栖川宮家に伝えられた有栖川御流の流麗な書もご紹介します。

近代に至ると、西洋から万年筆や鉛筆が導入されました。皇室の方々もこの新しい「筆」をお使いになりました。大正天皇はご自身のお写真に万年筆でサインをされています。

学校生活では鉛筆・筆箱といった文房具が欠かせません。明治末～大正期に学習院で学ばれた裕仁親王(昭和天皇)、雍仁親王(秩父宮)、宣仁親王(高松宮)、崇仁親王(三笠宮)ご兄弟ご使用の文房具や書初めなど、当館ならではの所蔵品もご覧いただきたいと思えます。

そして、令和元年(2019)度歴史関係ニュースのベストテンに数えられた「昭和天皇直筆御製草稿」についても、この度初公開いたします。

時代も内容も幅広い皇室関係の「筆の美」を是非ご覧ください。

(学芸員 長佐古美奈子)